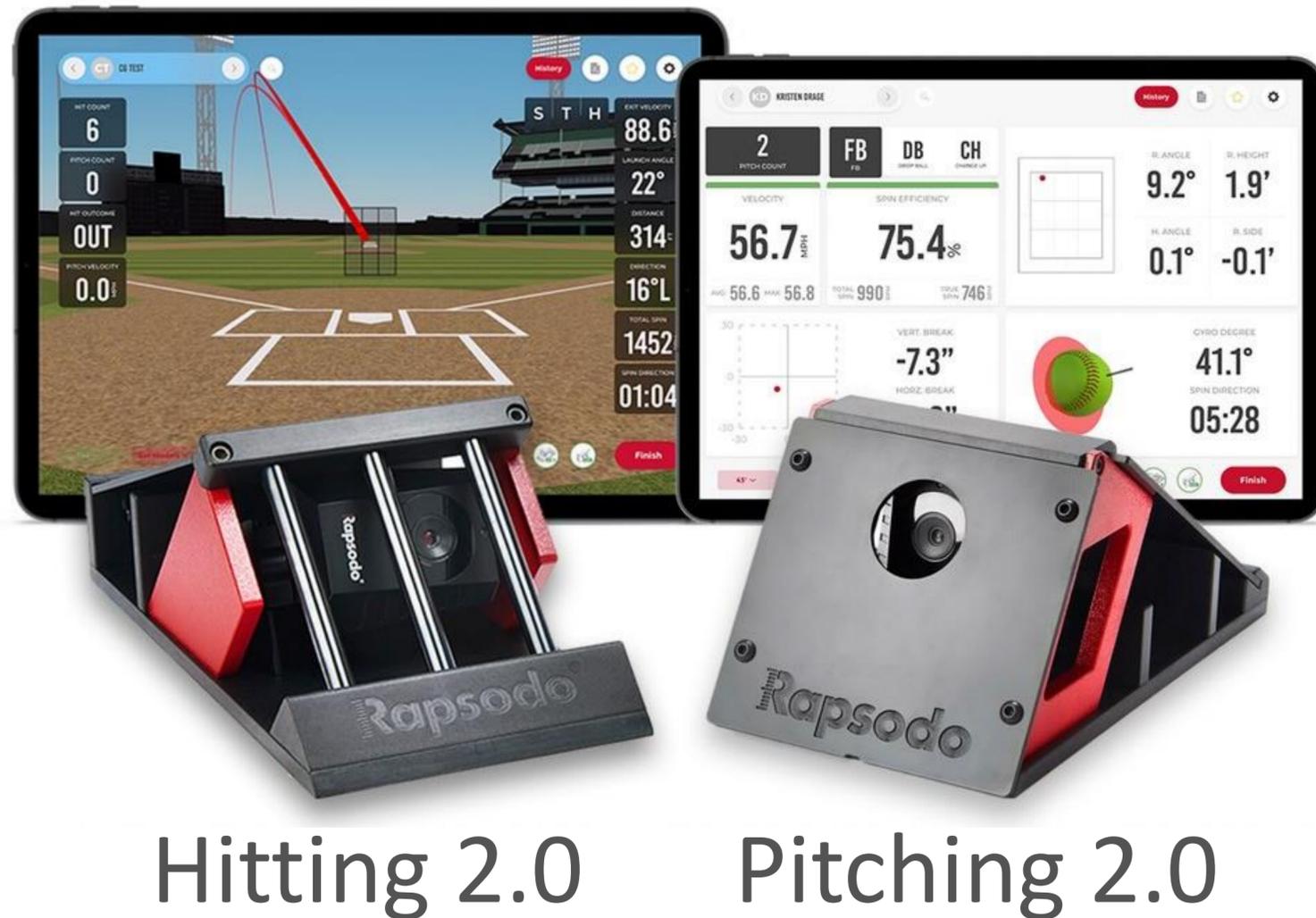


金足農業高校野球部 御中

“To help athletes reach their full potential.”

Rapsodo®

Rapsodoとは？



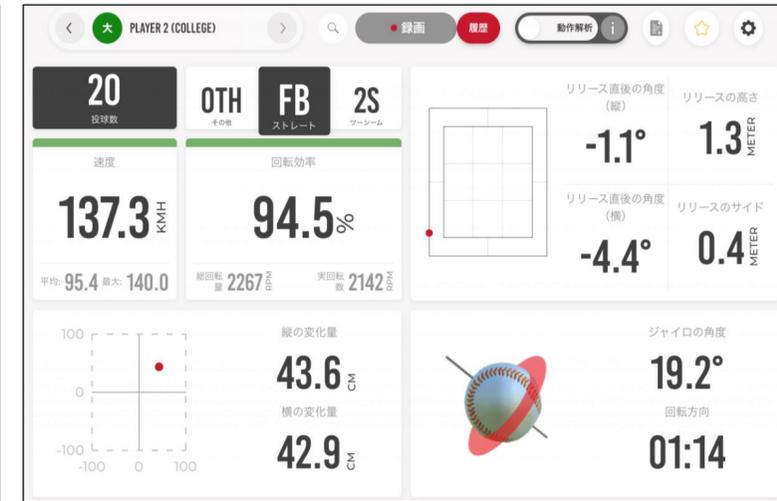
■ 野球、ソフトボール向け 弾道測定器ブランド

- ✓ レーダーとカメラにより投球・打球を計測
- ✓ 計測データの分析・活用
- ✓ 持ち運び可能なモバイル
トラッキングシステム

東京六大学、東都大学、高校野球約120校、中学硬式などにも続々導入中

選手・指導者の課題を解決

- このような課題を抱えていませんか？
- 選手それぞれに合った指導法が分からない
- 選手が伸び悩んでいるように感じる
- 投手の肩肘の故障が増えてきている、等

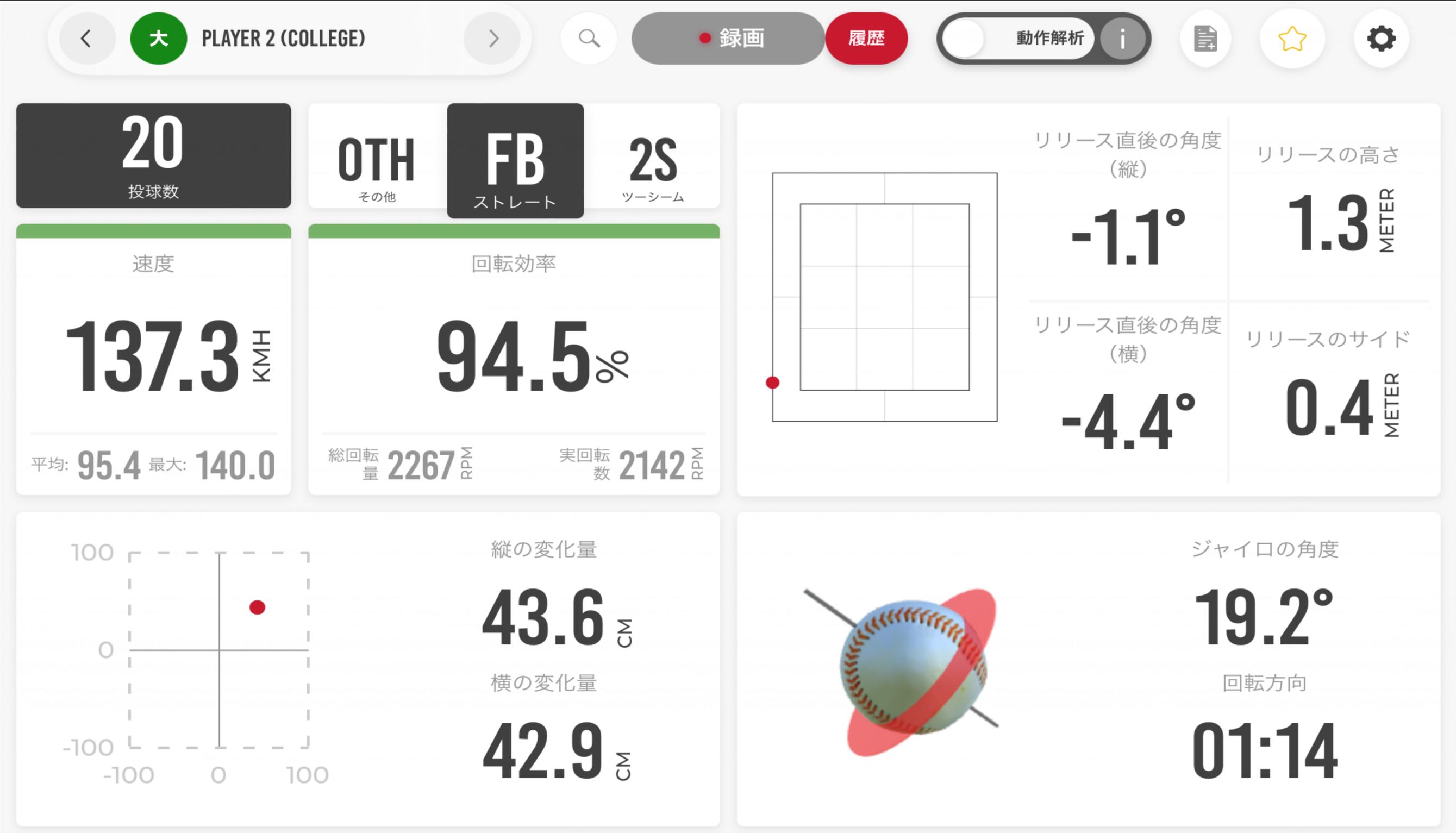


→選手の特徴や現在地が客観的に把握でき、より効率的に指導・コミュニケーションできる

早期の導入で、ライバルチームに差を付けましょう

Pitching 2.0



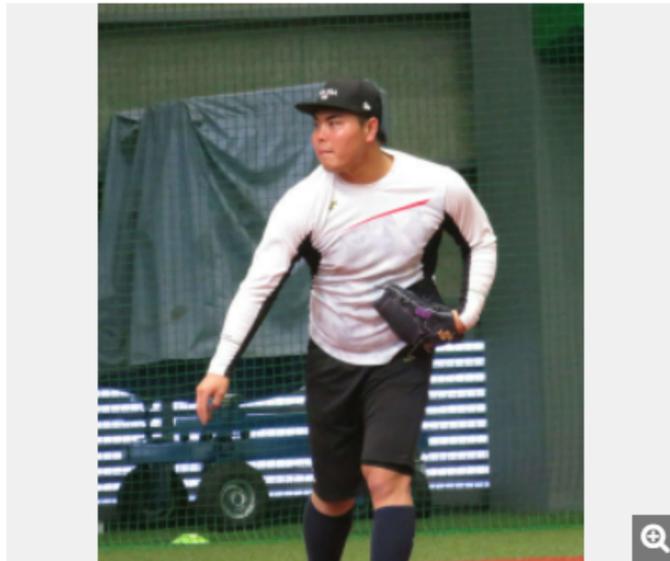


Pitching 2.0 活用例①

西武平良、自慢の直球に磨き「ホップするよう意識」

[2020年1月30日17時4分]

ツイート いいね! シェア B!



キャッチボールをする西武平良（撮影・栗田成芳）



高卒3年目の西武平良海馬投手が、さらなるジャンプアップを果たす。30日、埼玉・所沢で自主トレを行った。

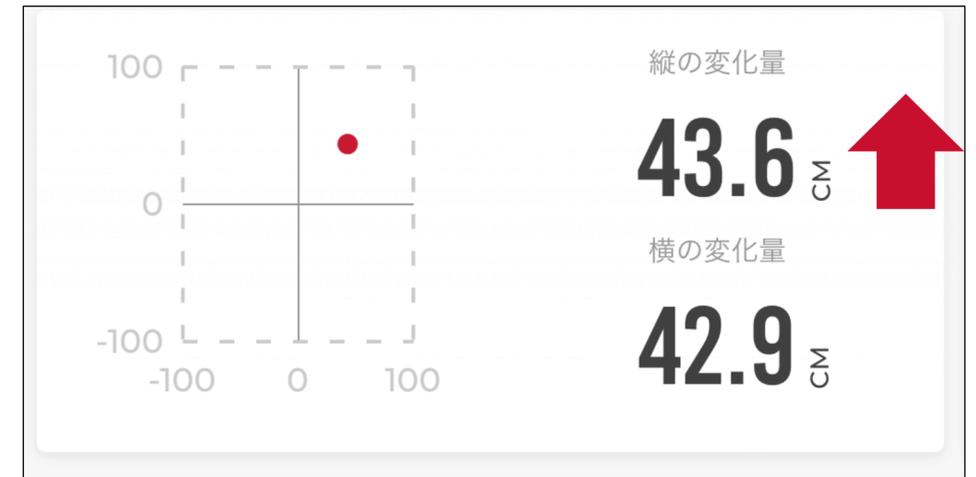
このオフは昨年12月に渡米し、マリナーズ菊池のアリゾナでの自主トレに50日間同行して帰国。その成果を確かめるように、丁寧にキャッチボールを行った。

アリゾナでは投球を数値化して分析。直球がスライダー気味にジャイロ回転する癖が判明した。「ジャイロ回転すると垂れてしまう。この回転を減らして、真っすぐが上にホップするよう意識して取り組んでいる」と、自慢の直球に磨きをかける。

出典：日刊スポーツ

ジャイロの角度

19.2° ↓



→ジャイロ角度を減らしてよりきれいなバックスピんに近づけることで、**空振りの取れるノビるストレート**に改善

Pitching 2.0 活用例②

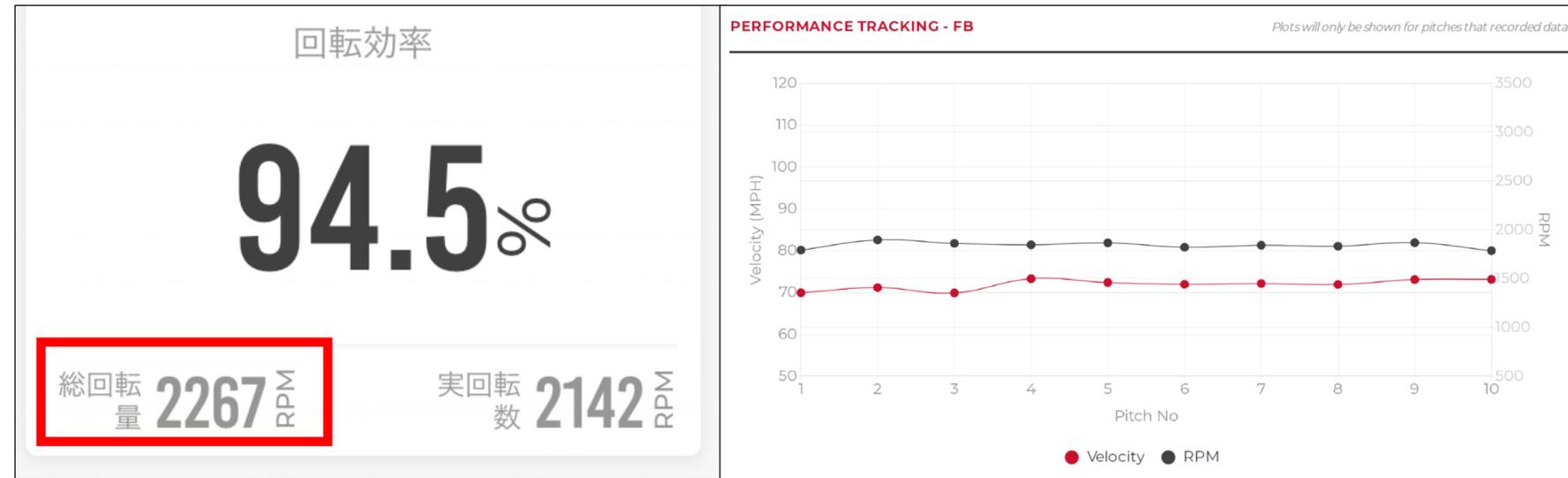
「故障の予兆」を選手は教えてくれない。データを使って、指導者が把握しないといけない



ラプソードのデータを使えば、先発投手ならストレートを投げ続けたときにどれくらいの球数から回転数が落ちてくるとか、軸が傾いてくるとかが練習で把握できます。

そうすると「この子は痛いと言わなければ150球投げられるけど、球質的には60球が限界だな」というようなことが分かってきますし、同時に「60球が交代の目安」という水準が見えてきます。

出典：「行けるところまで行け」ではダメ。元ロッテ投手・小林亮寛が語る計測の重要性【前編】



→投げ込み時に回転数の推移をチェックすることで、**球質が落ちるタイミングを把握したり、ケガの予兆を発見できる**

Rapsodo が提唱する大切なこと



データポイントの意味を知ること、計測し続けること、
数値を可視化して、自分の**現在地**と**目的地**を知ること

物事を論理的に視る眼、数値から導き出されるデータを
読み取り、**それをどう活かすか？**

人間的な成長 = 野球の成長



Rapsodo®

www.rapsodo.com